

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経済学Ⅱ		(NGB24F)
講義名 (コード)	経済学ⅡD		(NGB24FD)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高橋 亨	時間数	30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	経済が日常生活や企業経営に及ぼす影響を事例及び実践ワークを通して学ぶことで、社会人としての常識となる経済学を修得する。
全体の内容と概要	「日常生活」「企業活動」「市場経済」「経済成長」「金融」「グローバル経済」の分野における経済理論、また現在の日本国内や海外の経済情勢を理解する。
授業時間外の学修	実践ワークを通じて経済活動を体験する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で行うため、ヒアリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 ＜貨幣の価値、金融、日本銀行、公定歩合＞
2	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 ＜金融政策、信用不安、インフレ、デフレ＞
3	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	[実践ワーク] インフレ・デフレが経済に与える影響
4	お金と金融にまつわる経済学を理解することが出来る	・金融にまつわる経済学 ＜バブル経済と崩壊、デフレ不況、アベノミクス＞
5	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 ＜貿易、比較優位の原則、基軸通貨、国際収支＞
6	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 ＜アメリカの貿易赤字、円高・円安、経済統合と通貨統合、TPP＞
7	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	[実践ワーク] 円高と円安が経済に与える影響
8	中間テスト	・記述式テストの実施
9	グローバルな経済の仕組みを理解することが出来る	・グローバルな経済 ＜WTO、経済地理学、フェアトレード＞
10	政治と経済の関係が理解できる	・政治と経済 ＜政治的鋭気循環論、政策の遅れ、労働者派遣法、消費税＞
11	政治と経済の関係が理解できる	・政治と経済 ＜年金、高齢者雇用安定法、政府の信頼性＞
12	行動経済学が理解できる	・行動経済学 ＜ナッジ理論、上昇選好、フレーミング効果、ハロー効果、保有効果＞
13	企業、市場、金融、グローバル経済にまつわる経済学を理解することが出来る	企業にまつわる経済学、市場にまつわる経済学、金融、グローバル経済にまつわる経済学 おさらい
14	期末テスト	・記述式テストの実施
15	まとめと解説	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「経済学見るだけノート」木暮太一著・宝島社
参考文献・資料等	なし
備考	セカイハブ https://sekai-hub.com/

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング実践Ⅱ	(NGB24S)	
講義名 (コード)	マーケティング実践ⅡA	(NGB24SA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	身近な業界や企業からマーケティングを考えてみる。 そしてマーケティングを実践的に使えるようにする
全体の内容と概要	①マーケティングの思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げる ②理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容を理解できる	後期の授業テーマと流れの解説
2	ニューマーケティングポイントを理解できる	マーケティングはモノ消費とコト消費へ。そして…
3	AI時代のマーケティングを理解できる	今後のマーケティングはどのように変わるか
4	ローカルマーケティングを理解できる	商店街支援事例を通して、地域マーケティングを考察する
5	デジタルマーケティングのトレンドを理解できる	新しいマーケティングを体感する
6	マーケティング戦略を理解できる	差別化戦略、価格戦略を業種別に考察する
7	学んだことをアウトプットできる	ワークショップ
8	同上	興味があるビジネスの情報収集を実施
9	同上	商品開発を考察する
10	同上	SDGsの取り組みを考察する
11	同上	プロモーション戦略を立案
12	同上	マーケティング戦略をまとめる
13	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	経営戦略Ⅱ		(NGB24U)
講義名 (コード)	経営戦略ⅡA		(NGB24UA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人と組織を軸にして経営戦略を考える
全体の内容と概要	①企業を牽引するリーダーの資質、スキルを学ぶ ②これらの組織の形とは
授業時間外の学修	日頃から企業のリーダーがどんな判断をしているのかアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期の授業流れについて理解ができる	ガイダンス
2	組織について理解を深めることができる	組織とは何か。時代に共に変化してきた組織の形を学習する
3	同上	組織の活性化に必要な要素をを学習する
4	組織の新しい考え方について理解ができる	ウェルビーイングとは
5	同上	新しい組織（チーム）の形を学び体感してみる
6	心理的安全性の高い組織について理解ができる	心理的安全性の高い組織の特徴を学び、ストレスへの対処方法を学ぶ
7	チームワークについて理解ができる	チームワークに欠かすことができない協調性やコミュニケーションについて学ぶ
8	同上	ゲームを通して、チームワークを学ぶ
9	リーダーの特性を理解できる	起業家、政治家からリーダーシップ像を考えてみる
10	リーダーシップを理解できる	自分のリーダーシップはどこにあるのか考察してみる
11	リーダーに必要な資質を理解できる	協調力、判断力、傾聴力などリーダーシップに必要なスキルを磨くためには
12	学んだことをアウトプットができる	ワークショップ
13	同上	同上
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	貿易商務論Ⅱ		(NGB25C)
講義名 (コード)	貿易商務論Ⅱ A		(NGB25CA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中清夫	時間数	30
成績評価教員	田中清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	実際の輸出入取引を理解し、貿易実務検定資格受験レベルの知識を身につける
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	春学期授業の復習と秋学期授業の説明が理解できる	春学期に使った貿易用語を復習する。秋学期は、貿易実務、貿易英語、実務検定問題の勉強を毎回行う
2	貿易の流れが説明できる	貿易関係者と流れを図示する。色々な貿易取引を説明する。取引条件と必要な英単語を説明する。問題演習。貿易英文読解
3	信用状の実務が説明できる	信用状と関係者について復習。問題演習。貿易英文読解
4	貿易書類と手続きが説明できる	貿易の流れと必要書類を確認する。問題演習。
5	貿易法務が説明できる	貿易契約とインコタームズについて確認する。問題演習。
6	外国為替と代金決済が説明できる	外国為替レートの復習と関連事項の説明。問題演習。貿易英文読解
7	海上保険と貿易保険が説明できる	海上保険の内容を復習。問題演習、貿易英文読解
8	貿易クレーム対応が説明できる	貿易クレーム説明。問題演習。貿易英文読解
9	貿易と環境条件が説明できる	貿易に関連する国際条約の説明。問題演習。貿易英文読解
10	貿易経済知識が説明できる	世界の貿易に関する経済用語の説明。問題演習。貿易英文読解
11	通関知識が説明できる	通関用語の説明。問題演習。
12	貿易運送が説明できる	海上運送等の特殊用語の説明。問題演習、貿易英文読解
13	マーケティングが説明できる	貿易のマーケティングの復習。問題演習。貿易英文読解
14	テスト	総合テスト
15	フィードバック	講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	13歳からの図解でやさしい貿易
参考文献・資料等	必要に応じてコピーを配布する
備考	発表などグループ作業もあるので積極的な参加が必要

2026年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	世界情勢Ⅱ	(NGB25E)
講義名 (コード)	世界情勢ⅡA	(NGB25EA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	松尾 早苗	時間数 30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際人になるための基礎知識としての世界情勢を理解し国際感覚を身につける
全体の内容と概要	春学期からの展開～解決策共創案を考えてみる (多文化共生と未来へのアクション)
授業時間外の学修	新聞、ニュースを関心を持って毎日観る/読む
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	春学期の内容をもう一度きちんと理解している	春学期の復習
2	パートナーシップの力を理解する	連携の重要性 企業・自治体・個人の協力事例を学ぶ
3	多文化共生の重要性を類解する	上田で暮らす留学生の視点をもとに多文化共生の最善策を考える
4	エシカル消費について理解する	買い物による社会貢献を実践する 応援したい企業や商品を選び紹介
5	デザイン思考について理解する	課題解決のための思考法を習得する 共感から始まる解決案の作成演習
6	地方創生について理解する	地域課題を解決する持続可能な形 日本の地方でのSDGs先進事例
7	効果的な伝え方、 発信の仕方を理解する	相手に響く発信方法を工夫する SNSやポスターによる啓発を企画
8	世界の未来を想像できる	未来年表作成 2030年の世界の姿を予測する 目標達成時の社会を想像し描く
9	紛争のない社会への仕組みを 考えることができる	平和と公正 世界の紛争情勢と人権保護の仕組み
10	世界の移動の背景と共生を 考えることができる	移民と難民 難民問題の現状と受け入れの課題
11	学習成果を発信できる	「私のサステイナブル宣言」発表会
12	アクションプランを 考えることができる	学びを明日からの行動へ繋げることを目標に アクションプランをまとめる
13	後期内容復習	復習プリント
14	期末テスト	後期内容のテスト
15	フィードバック・まとめ	テスト結果とフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	自分ごとからはじめよう SDGs探求ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方
参考文献・資料等	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	会計財務Ⅱ		(NGB25G)
講義名 (コード)	会計財務ⅡA		(NGB25GA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期で身につけた商業簿記の基礎をもとに、より実務的な会計処理や応用的な取引の理解を深め、日商簿記3級レベルの総合問題に対応できる実践的な力を養うことを目指します。
全体の内容と概要	応用的な会計処理や総合問題に取り組み、実践的な理解を深めます。 模擬試験形式の問題を通して、検定試験に対応できる総合力を養います。
授業時間外の学修	むずかしい総合問題がふえていきます。授業で勉強した内容をしっかり復習し、練習問題や模擬試験をくり返して学ぶことで弱いところをなおし、検定試験に合格する力がつきます。
履修上の注意事項等	検定試験は随時受験できます。受験日を考えて計画的に学習してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期内容を復習し 基本事項を確認できる	前期学習内容復習
2	有形固定資産の会計処理を 理解して正しく仕訳できる	有形固定資産の取得・売却
3	減価償却の仕組みと記帳方法を 理解できる	減価償却とは何か・減価償却費の記帳方法
4	純資産が増減する取引内容と 引出金の会計処理を理解できる	純資産（資本）の増加・減少、引出金の処理
5	税金の種類と特徴を理解できる	税金の種類（固定資産税・印紙税・所得税・消費税）
6	税金のしくみを理解し、税金の 仕訳や消費税の処理ができる	税金の仕訳・仮受、仮払消費税の処理
7	収益と費用の基礎を復習し 勘定科目と仕訳を正しく理解できる	収益と費用 勘定科目と仕訳の復習・練習問題
8	試算表の作成方法を復習し 自分で正しく作成できる	試算表の作成復習・練習問題
9	3伝票制のしくみを理解し 伝票の集計と管理を正しく行える	3伝票制・伝票の集計と管理・練習問題
10	主要な仕訳を正しく思い出し 確実に処理できる	重要仕訳の総復習
11	計算問題に正確に対応し 勘定科目を適切に選択できる	計算問題・勘定科目の確認
12	試算表と伝票に関する問題を 自力で解ける力を定着させる	試算表・伝票など主要テーマの復習
13	総合問題に対応できる実践力を 身につけ弱点を補強できる	模擬問題による総まとめ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	土日合格（うか）る日商簿記初級
参考文献・資料等	各問題集より練習問題・資格対策には問題集の模擬試験プログラムも活用します
備考	担当教員はPCスキル及び簿記の実務経験を活かし、 日商簿記初級～3級レベルの授業を展開する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス資格対策Ⅱ		(NGB25J)
講義名 (コード)	ビジネス資格対策ⅡA		(NGB25JA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル人材として世界で活躍するための知識を習得する
全体の内容と概要	接遇力、コミュニケーション力、ビジネスマナー、異文化適応力を学び身につける
授業時間外の学修	常日頃から場面に合ったマナーや言葉遣いを意識して行動しましょう
履修上の注意事項等	G検の合格と就職を目指して積極的な姿勢で学習しましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	クレーム対応できるようになる①	クレーム発生のお客様心理、グッドマンの法則、基本の流れについて学ぶ
2	クレーム対応できるようになる②	傾聴と共感について学びロールプレイ ふりかえり練習問題
3	異文化適応力を身につける①	知・異文化3つのステップ、言語・非言語コミュニケーション、異文化コミュニケーション、日本のコミュニケーションの特徴について学ぶ
4	異文化適応力を身につける②	日本人が大切にしていることや考え、和の精神、言葉づかいは心づかい、日本のおもてなしについて学ぶ
5	異文化適応力を身につける③	日本の贈り物のマナー、冠婚葬祭、各国のあいさつ、各国の文化・風習・タブーについて学ぶ
6	異文化適応力を身につける④	ジェスチャーについて学ぶ ふりかえり練習問題
7	食事のマナーを身につける①	食事の基本マナー、和食・洋食のマナーを学び、練習する
8	食事のマナーを身につける②	パーティーのマナー、お酒のマナーを学ぶ ふりかえり練習問題
9	国際プロトコールを身につける①	国際的な場での5原則、レディファースト、紹介とあいさつ、好ましい話題、好ましくない話題、国旗の掲揚について学ぶ
10	国際プロトコールを身につける②	贈り物のマナー、自国の文化、日本の文化の紹介について学ぶ ふりかえり練習問題
11	感動品質のサービスについて理解する①	顧客満足度向上、サービスのプロフェッショナル、会話をする力について学ぶ
12	感動品質のサービスについて理解する②	VIP対応について学ぶ ふりかえり練習問題
13	ご高齢や障害のある方への対応ができるようになる	ご高齢の方・車いすをご利用の方・聴覚障害・言語障害をお持ちの方への接し方について学ぶ
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	G検 グローバル人材ビジネス実務検定公式テキスト 接遇編
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策 IV	(NGB25L)	
講義名 (コード)	検定対策 IVA	(NGB25LA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お客様の不満そうな様子を察して声をかけ、話を聞きだすことができる	<第6課> 傾聴について学び、お客様の話を聞く姿勢を実践する。
2	お客様のクレームを傾聴し、丁寧に謝ることができる	グッドマンの法則について学び、クレーム対応のロールプレイを行う。
3	お客様の要望に応えられなくても代案を立て、お客様に理解してもらうことができる	<第6課> の復習(まとめ問題) <第7課> 実際の場面を想像して、「代案」を考える練習をする。
4	お客様のあいまいな要望に対して確認し、いくつか提案することができる	CS、CDについて学び、 お客様に満足していただけるような「提案」を考える。
5	お客様の要望に応えられない時、誠実に断り、代案を立て対応することができる	<第7課> の復習(まとめ問題) <第8課> お客様の要望に応えられないときの対応方法を考え練習する。
6	お客様のクレームに対して誠実に謝り、迅速な対応ができる	お客様への謝罪の方法について学び、実際の場面を想像して ロールプレイを行う。
7	席次を理解することができる	席次について学び、案内の方法を考える。 <第8課> の復習(まとめ問題)
8	後期で学習したことを確認し、実践できる	第6課～第8課の復習をし、テストに向けて練習する。
9	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト①
10	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト②
11	後期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト③ / フィードバック
12	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
13	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
14	1年間学習したことを思い出し、サービス接客検定の問題を解くことができる	サービス接客検定の問題を解く。 なぜその答えになるか理由までグループで話し合いをする。
15	1年間のまとめ	この授業を受けてわかるようになったこと、できるようになったことを振り返り、今後どのように活かしていくか考える。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	マナー＆プロトコールの基礎知識 サービス接客検定試験合格テキスト&問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣ	(NKT25F)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣB	(NKT25FB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	宮原 祥子	時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	これまで習得した内容に加えて、より実務に近いデータ処理・分析を学び 職場で求められる正確かつ効率的な資料作成スキルを習得する
全体の内容と概要	実務で使うテンプレートで、習得した総合演習を行い職場で活かせる運用力を身につける
授業時間外の学修	仕事で使える内容を授業の課題にしています。卒業後、仕事に活かせるように 復習して理解してください。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	VLOOKUP関数で必要なデータを取り出し正しく反映できる	VLOOKUP関数① VLOOKUP関数の構造と使用方法
2	違いを理解し表の形式に合わせて使い分けられるようにする	VLOOKUP関数② VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
3	練習問題を実務テンプレートで行い処理能力をつける	VLOOKUP関数を活用した練習問題
4	テーブル機能を用いてデータを正確に作成・更新することができる	テーブル機能（テーブル作成・検索・集計）
5	練習問題を解くことで基本的なデータ処理ができ、指示に基づいた処理を制限時間内に正確に行うことができる	日商PC検定 Basic・3級問題 基本の計算式・累計の計算
6		日商PC検定 Basic・3級問題 グラフの作成・編集
7		日商PC検定 Basic・3級問題 データベース分析（並べ替え・フィルタ・IF関数）
8		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得希望学生（Word・Excel・PowerPoint） 自分の受験する資格に合わせた練習問題を解き、受験対策を行う その他の学生 実務で使う書式で、文書作成やデータ入力→集計→分析まで処理する課題を行う
9	高度な機能を習得し資格試験で求められる実務的スキルをつけることができる	
10		
11	実務テンプレートを使った総合課題で文書作成、データ処理を行う力をつけることができる	
12		
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel、日商P C検定BASIC公式テキスト・問題集（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(NKT25H)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣB	(NKT25HB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 同会社ライトハウス・キーパーズ代表	合 授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】後期の内容について説明、心構え 【演習】進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる（1）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる（2）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる（3）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる（1）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる（2）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる（1）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる（2）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる（1）	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる（2）	【入社前研修】入社時書類、労働条件（給料、時間、休日、勤務地） 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる（1）	【日本の企業】1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	卒業研究		(NKT25J)
講義名 (コード)	卒業研究B		(NKT25JB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ここまでの学習の集大成を、自分自身で振り返り、自分だけでなく人にも伝えられるようにわかりやすい説明とプレゼンテーションを行うことができる
全体の内容と概要	今まで学習したことを振り返り、さらにそれについて知識を深めたり、PPTを使用しプレゼンテーション練習も行う。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	今まで学習した内容を振り返り、語彙を確認することができる	今までに学習した国際問題など、経済や政治問題に頻出する語彙を確認する
2	マインドマップを作成できる	今まで学習したことをもとにマインドマップを作成する
3	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる①	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものをピックアップする
4	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる②	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
5	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる③	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
6	自分の考えを人に伝えることができる	クラス内発表
7	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる①	卒業発表にふさわしい発表テーマについて考える
8	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる②	テーマをもとにマインドマップを作成する
9	自分の言葉で表現することができる①	スピーチ原稿を作成する
10	自分の言葉で表現することができる②	スピーチ原稿をもとに話す練習をするPPTを作成
11	卒業発表を意識しスピーチすることができる①	パワーポイントを作成
12	卒業発表を意識しスピーチすることができる②	パワーポイントを作成
13	期末テスト	クラス内発表 FB
14	期末テスト	クラス内発表 FB
15	期末テスト	クラス内発表 FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡ	(NKT25L)
講義名 (コード)	ビジネスプレゼンテーションⅡC	(NKT25LC)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数 2
授業担当者		時間数 30
成績評価教員	堀 文	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ	(NKT25N)	
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ A	(NKT25NA)	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 また、日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	実践問題が理解できる1 2 いろいろなタイプの話の聞こう2	読解：統合理解 例題2 6 聴解：指示を聞こう
2	実践問題が理解できる1 3 いろいろなタイプの話の聞こう3	読解：統合理解 練習6 0 聴解：説明を聞こう
3	実践問題が理解できる1 4 いろいろなタイプの話の聞こう4	読解：統合理解 練習6 1 聴解：テーマやいいたいことを聞こう
4	実践問題が理解できる1 5 いろいろなタイプの話の聞こう5	読解：統合理解 練習6 2 聴解：まとめ問題
5	実践問題が理解できる1 6 いろいろな語彙や表現を覚えよう1	読解：統合理解 練習6 3 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう①
6	実践問題が理解できる1 7 いろいろな語彙や表現を覚えよう2	読解：情報検索 例題2 7 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
7	実践問題が理解できる1 8 いろいろな語彙や表現を覚えよう3	読解：情報検索 例題2 8 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
8	実践問題が理解できる1 9 いろいろな語彙や表現を覚えよう4	読解：情報検索 練習6 4 聴解：言い換えの言葉を覚えよう
9	実践問題が理解できる2 0 いろいろな語彙や表現を覚えよう5	読解：情報検索 練習6 5 聴解：よく聞く表現を覚えよう
10	実践問題が理解できる2 1 いろいろな語彙や表現を覚えよう6	読解：情報検索 練習6 6 聴解：まとめ問題
11	実践問題が理解できる2 2 ま まとめ問題をやってみよう1	読解：情報検索 練習6 7 聴解：総まとめ問題1
12	実践問題が理解できる2 3 ま まとめ問題をやってみよう2	読解：情報検索 練習6 8 聴解：総まとめ問題2
13	実践問題が理解できる2 4 ま まとめ問題をやってみよう3	読解：情報検索 練習6 9 聴解：総まとめ問題3
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N1 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ		(NKT25P)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ A		(NKT25PA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやりとりができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 2	文法：～かと思いきや ～んがため ～のごとく 文字語彙：文脈規定15回
2	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 3	文法：～にして ～だに ～～だにしなかった 文字語彙：文脈規定16回
3	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 4	文法：～かねる ～を限りに CHECK 文字語彙：17回
4	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 5	文法：まとめの問題 文字語彙：文脈規定17回
5	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる1	文法：～からいる ～にかかわる ～にあつて 文字語彙：文脈規定18回
6	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる2	文法：～ようによって（は） まとめの問題 文字語彙：文脈規定19回
7	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる1	文法：～べからず ～のみ ～がゆえ 文字語彙：文脈規定20回
8	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～と相まって ～にかたくない 文字語彙：言い換え類義1回
9	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる3	文法：～としてあるまじき ～ずにはすまない 文字語彙：言い換え類義2回
10	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる4	文法：～でなくてなんだろう ～極まりない 文字語彙：言い換え類義3回
11	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる5	文法：～を禁じえない ～にたる 文字語彙：言い換え類義4回
12	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる6	文法：～べくもない ～なくして 文字語彙：言い換え類義5回
13	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる7	文法：CHECK 文字語彙：言い換え類義6回
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ドリル&ドリルN1文字語彙 TRYN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング実践Ⅳ	(NKT25R)
講義名 (コード)	Webマーケティング実践ⅣA	(NKT25RA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数 30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、動画作成の基本を学び、視覚的に魅力的で効果的なショート動画を作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAを使用して、アニメーション・フォトムービー・動画の基本的な制作方法を学び、企画、撮影、編集したセルフプロデュースショート動画の制作に取り組む。
授業時間外の学修	課外授業・体育祭・卒業発表に合わせたポスター等の作成
履修上の注意事項等	Canvaアカウントログインのため毎回各自のスマホを使用します。課題の提出はTeamsを使用しますのでID・パスワードの管理をお願いします。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	基本操作の復習	SNS投稿画像とキャプション制作
2	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンブなどの効果を使用したショート動画の制作
3	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンブなどの効果を使用したショート動画の制作
4	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
5	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
6	セルフプロデュースショート動画 ①素材撮影	街や観光名所を撮影する（動画・静止画）
7	セルフプロデュースショート動画 ②企画	撮影した素材に合わせて動画のストーリーを企画、絵コンテ、キャプションを考える
8	セルフプロデュースショート動画 ③動画制作	企画に沿って動画を制作
9	セルフプロデュースショート動画 ④BGM・効果音	動画に合わせて音を挿入する
10	セルフプロデュースショート動画 ⑤サムネイル画像	サムネイルが与える動画への効果を学び、動画を完成させる
11	セルフプロデュースショート動画 ⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
12	セルフプロデュースショート動画 ⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	